

東北森林科学会 御中

一般財団法人 日本森林学会  
会長 丹下 健

平素より弊学会の活動にご理解、ご支援いただきお礼申し上げます。

貴学会大会の開催を心よりお祝い申し上げます。新型コロナウイルス感染症が収束しないなかでの開催準備や運営には、多大なご苦勞があったことと思います。大会運営委員会の皆様のご尽力に、心より敬意を表したいと思います。

近年、異常気象が頻発するようになり、地球温暖化に伴う気候変動が、社会の持続可能性にとっての脅威となっており、今世紀半ばでの温室効果ガス排出実質ゼロの実現が、世界共通の目標となっています。そのため気候変動の緩和に寄与する森林への期待はますます高まっています。しかしながら、世界では森林面積の減少が続いています。国内では、主伐期を迎えた人工林が過半を占めるようになり、国産材供給量は近年増加傾向にありますが、造林未済地の増加によって幼齢期の人工林面積は増えず、将来の人工林資源造成は進んでいません。森林に関わる課題は、森林の大切さを訴えるだけでは解決せず、森林保全と経済活動が両立できる社会システムが必要です。森林科学の特長は、自然科学だけではなく、人文科学や社会科学など広範な分野を含む総合科学という点です。そのような多様性を核としてさらに広範な専門分野の方々との協働を広げていくことが求められていると思います。連携学会大会では、地域に根ざした現場に近い研究者の方の参加も多いものと思います。多様な研究者が交流し連携を深めて行くことも学会の役割であり、その場が学会大会であると思います。

気候変動や人口減少、資源の持続的管理など、森林を取り巻く自然・社会的課題は、今後ますます重要性を増し、森林科学関連学会の役割はますます大きくなってくると確信しております。研究における協力はもちろんのこと、多様な社会的要請にこたえていけるように緊密に連携させていただくことを願っております。

最後になりますが、貴学会の益々の発展と貴学会大会の盛会を祈念いたしております。